

深刻化する福島状況

東北地方太平洋地震による津波と福島第一原発事故は私たちに衝撃を与えました。その福島第一原発事故から丸6年。深刻化する福島の状況を一緒に考えましょう。

この6年間、毎月のように福島県に行かれ福島で被災者の方々の相談に乗ってこられた山崎知行医師に福島の被災者の状況を話していただきます。



○講師 山崎知行氏(医師)

○日時 3月4日(土)14:00~16:30

○場所 フォルテワジマ(本町2丁目)6階「ボランティアサロン」C会議室

☎073-426-0168

○参加費無料 無料駐車場は和歌山市役所の駐車場があります。

主催 原発がこわい女たちの会 連絡先 073/451/5960 松浦

いのちを守れ!フクシマを忘れない さようなら原発 全国集会 2017/ 3/20 代々木公園

主催:「さようなら原発」一千万署名 市民の会

■「高浜原発うごかすな！1.22 関電包囲全国集会」に参加しました

集合（大阪中之島）→出発集会→デモ行進（西梅田公園まで）→関電本店ビル前での集会のコース。参加報告です。

関西電力高浜原子力発電所は、福井県の西端にあり京都府舞鶴市と隣接するところに建てられています。高浜3・4号機の再稼働と差し止めの経過、および1・2号機の老朽原発については以下の通り。

●1974年に1号機による営業運転を開始、以降85年に運転開始の4号機まで、4基の原子炉がある。2011年1月には3号機でプルサーマルによる本格運転が再開されたが、福島第一原発事故の影響を受け、2012年までにすべての原子炉が停止した。●15年2月、3・4号機について原子力規制委員会は新規基準によるGOサインを出したが、15年4月、福井地裁（樋口英明裁判長）は再稼働を認めない仮処分の決定。同年12月、福井地裁（林潤裁判長）は関西電力の異議申立を受けた異議審で先の再稼働差し止め仮処分を取り消し。●16年1月に3号機が、同じく2月に4号機が再稼働したが、4号機は直後に機器トラブルにより緊急停止。●16年3月には大津地裁（山本善彦裁判長）が、3・4号機について運転停止を命じる仮処分の決定を出し、運転中の3号機停止。7月異議審での関電の主張は退けられ、審理は大阪高裁へ。●一方、1・2号機については、16年6月、原子力規制委員会が運転を最長20年間延長することを認めた。建設から40年超の老朽原発で審査に合格し延長が許可されたのは初めて。

●現在、大阪高裁（山下郁夫裁判長）では3・4号機の大津地裁仮処分決定に対する抗告審が行なわれ、2月にも決定が出るもよう。もし、逆転判決が出れば、2月中の再稼働の可能性がある。

さて、デモ・集会参加の記ですが、とにかく大変過酷な気象条件でした。集合場所の中之島の市役所隣は地下鉄淀屋橋をあがってすぐ、すでにおおぜいの参加者と、ノボリが賑やかにはためいていました。出発集会を終えてデモに出発、という段になって激しい雨。プラカードを手に雨傘さして水溜まりよけながら歩く。御堂筋を北上し左折して関西電力本店ビルの近くまで約1時間の行程でした。

関電本店包囲の集会は時間通り16時に始まりました。雨はあがり薄日もさしていましたが、こんどは強風。関電ビルの正面はまともに西からの寒風があたり、寒いこと寒いこと。でもここは耐えるしかない、と気力で頑張りました。立ち姿勢でできる肩腕や足の筋肉運動やりながら。

木原壯林さん（若狭の原発を考える会）の主催者挨拶に続き、全国各地からの連帯の報告と決意表明がなされました。福島を皮切りに南は川内から北は泊まで、原発立地で反原発を闘っている11団体が結集と、全国ほぼ網羅。また、地元の関西や福井県の反原発グループや労働者、障がい者などからの発言が続きました。

じっくり情報共有するには正直、時間も環境も不足するのですが、北陸・志賀原発から来られた方の、戦前・戦中の朝鮮人労働者の犠牲の上に建設された富山の黒部ダム(事業主体は関電)のエピソードや、「命を大切に」との脳性まひの方からの訴えは心に迫るものでした。

福井原発訴訟(滋賀)弁護団長の井戸謙一さんは、次のようにアピールされました。「大阪高裁決定」が厳しいものになると悲観的な予想が多いが、必ずしもそうではない。原発を動かせば必ず事故のリスクをとまなう。そのリスクを住民に負わすことは許されないこと。車や新幹線にもリスクがあるという人がいるが、原発とは違う。なぜなら原発がなくても発電は可能だから。必要ないのにリスクは大きい、この原発の本質を裁判所が理解すれば、私たちは訴訟に勝てる、と。

最後に、若狭の原発事故では数百万人の避難者を生み、1450万人の水源びわ湖が汚染され深刻な事態を引き起こしかねないこと、自然災害と違って原発事故は止められること、



私たちは原発の全廃を闘いとる、と決議して集会を終えました。参加者数はデモ450人、集会1000人だったそうです。悪天候にしては、よく集まったのではないでしょうか。

(関電前集会：高浜原発うごかすな！の前で井戸謙一弁護団長の話に聴き入る)

追記：この前々日に、高浜原発サイトで大型クレーン1台が核燃料を保管する建物に倒れこみ屋根を破損する事故が起こったばかり。暴風警報発令時などはクレーンを折り畳むなり寝かすなりするもの。自然の脅威を舐めている関電という会社の体質をあらためて思い知らされた一件でした。

(梅原清子)

以下に当日の動画があります。

<https://www.youtube.com/watch?v=HxCCB6qqvIU>

再稼働阻止全国ネットワーク

<http://saikadososhinet.sakura.ne.jp/rn/archives/tag/%E9%AB%98%E6%B5%9C%E5%8E%9F%E7%99%BA>

■福島の小児甲状腺がん疑い含め183人～2巡目で68人 福島県県民健康調査

投稿者: ourplanet 投稿日時: 火, 12/27/2016 - 16:31

検討委員会後半（甲状腺結果以降）

東京電力福島第一原発事故後、福島県が実施している「県民健康調査」の検討委員会が27日、開催され、2巡目の健診で悪性または悪性疑いと診断された子どもは、前回より9人増え68人となった。また手術をして甲状腺がんと確定したのは、10人増え44人となった。1巡目と2巡目をあわせた数は、甲状腺がんの悪性または悪性疑いが183人。手術を終えた人が146人で、1人をのぞく145人が甲状腺がんと確定した

先行調査・1巡目 (平成23～24年度)

地域	18歳以下の人口	第一次検査受診者	第一次検査陽性	第二次検診受診者	細胞診によるがん症例数(手術例数)
平成23年度	47,770	41,811 (87.5%)	221 (0.53%)	199 (90.0%)	15*(15*)
平成24年度	161,126	139,339 (86.5%)	988 (0.61%)	920 (93.1%)	56 (52)
平成25年度	158,776	119,326 (75.2%)	1,085 (0.68%)	1,009 (93.0%)	45 (35)
合計	367,672	300,476 (81.7%)	2,294 (0.62%)	2,128 (92.8%)	116(102)

*良性腫瘍1例を含む

本格検査・2巡目 (平成26-27年度検査) 2016年9月30日現在

地域	18歳以下の人口	第一次検査受診者	第一次検査陽性	第二次検診受診者	吸引細胞診実施数	がん症例数(手術例数)
26年度	216,875	159,127 (73.4%)	1,305 (0.8%)	1,077 (80.1%)	148 (19.4)	51 (36)
27年度	164,406	111,327 (67.7%)	917 (0.8%)	608 (66.3%)	41 (9.9)	17 (8)
合計	381,281	270,378 (70.9%)	2,222 (0.8%)	1,685 (75.8%)	189 (16.1)	68 (44)

本格検査で甲状腺がんの疑いがあると診断された68人の年齢は、2次検査時点での年齢は9歳から23歳。性別は男性31人、女性が37人と1:1.19の比率だった。通常、甲状腺がんは女性の比率が高いが、男性比率が極めて高い結果となった。

清水一雄委員がこの点について、ベラルーシの甲状腺医デミチク医師が「チェルノブイリの変化のひとつに男女比がある」と言及していたことに触れ、県立医大の見解を糺したが、甲状腺検査を担当している大津留晶氏は回答を控えた。

また春日文子委員が再発状態や遠隔転移について質問したが、これについても、回答しなかった。

なお腫瘍の大きさは5・3ミリから35・6ミリで、先行検査の結果は、A1判定だった人が31人、A2だった人が31人で計62人。B判断だった人は5人。先行検査未受診者が一人いた。

—続いてOurplanetより

岡山大学大学院環境生命科学研究科の津田敏秀教授が、今回新たに公表された2巡目のデータを解析した。津田教授は、「2巡目の検診結果は、相馬地区を除き、すでに桁違いの甲状腺がんの多発を示している。もちろん、統計的有意差が十分にある。」とした上で、「もはや2巡目について、スクリーニング効果」や「過剰診断仮説」は原理上は使えず、むしろ1巡目における「スクリーニング効果」や「過剰診断仮説」を評価をするにあたっての基準になる」と指摘する。

津田教授は、甲状腺がんの多発の原因について議論を避けている検討委員会を厳しく批判。「疫学理論を知っているかどうかよりも、論理的思考能力があるかどうか、医学的根拠に基づいて議論することができるのかどうかという、公的機関の委員としての資質に問われる事態になったと思われる。」と述べた上で、海外を含め、きちんとした専門家を招き、議論するべきであると提言した。

ほっとけない話です。-----

小児甲状腺がんが福島県やその周辺で増えています。しかし国は東京電力福島第一原発事故による放射能の影響だとは認めていません。そのような中、親子で孤立し、診察や通院で経経済的に追い込まれたり、進学、就職、結婚などで壁に突き当たったりしている子どもたちを支えるために「3.11 甲状腺がん子ども基金」が昨年発足し（当会ニュース 99号でお知らせ）、早急に必要な医療費給付事業「手のひらサポート」が動き出しました。（子ども基金のチラシ同封）下記は3. 1 1 甲状腺がん子ども基金 2016/12/26 ニュースより

全国の皆さまからの寄付をいただき、昨年12月1日から受付を開始しました、療養費給付事業「手のひらサポート」は、昨年12月20日に給付対象者を決定し、26日から療養費を給付いたしました。第1回目となった給付を受けたのは35人。福島県26人のほか、神奈川県3人、宮城県、群馬県、千葉県、埼玉県、長野県、新潟県が各1人でした。

「手のひらサポート」の第一期は3月31日まで。1月半ばに第2回審査会議があり、1月末には、第2回の給付をいたします。第一期は、1月31日が第3回給付の申請締め切り、2月27日が第4回給付の申請締め切り、3月31日が第5回給付の申請締め切りとなっています。

「手のひらサポート」は、甲状腺がんの手術をした方、または穿刺細胞診で甲状腺がんと診断された方に、療養費を給付する事業です。

給付対象となる方は、2011年の原発事故以降に、岩手県、宮城県、山形県、福島県、新潟県、栃木県、群馬県、茨城県、千葉県、埼玉県、東京都、神奈川県、静岡県、山梨県、長野県の1都14県に居住していた25歳以下の住民で、甲状腺がんと診断された方。金額は一律10万円で、アブレーション治療やアイソトープ治療の必要があると診断された人には10万円を追加して給付します。

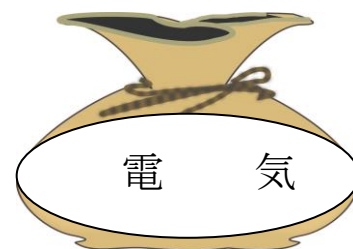
今回、第1期の募集期間は、2017年3月31日までで、事業は4月以降も継続します。



■電力システム改革とは

東電救済と原子力政策の負担を

国民に押し付けるシステムの事なのか。



今までの電力事業者は総括原価方式で、必要なコストを全て原価に組み入れて電気料金に反映できた。その総括原価方式が2020年に撤廃される。そうすると多額の事故処理を抱える東電は、競争力が落ちて不利になる。だから、新電力に乗り換えた利用者も、必ず支払う託送金に賠償費用や廃炉費用を上乗せして、広く国民負担にさせる仕組みを作ろうと必死。「これを許してしまえば、今後、国民が支払う原発事故処理費用は、青天井になる可能性があります。」と大島堅一氏

経産省は昨年12月、国民に非公開で、原子力を推進する財界人などで話し合う「東京電力改革・IF問題委員会」を開催。その中で、廃炉や賠償費用など、福島第一原発事故の処理費用が、2012年に試算した11兆円から、倍の21.5兆円に増えるという試算を示した。それに合わせて、政府は昨年末、事故処理費用を国民の電気料金にさらに上乗せすることを閣議決定した。

国民負担策・驚きの理由 過去分の賠償金を45年前にさかのぼって徴収。日本に原子力発電所が出来た1966年から、事故が起きるまでの45年分をさかのぼり、「過去分」の賠償費用として、電気代の内“託送料金”と呼ばれる送電線使用料に上乗せして、2020年から40年かけて電気利用者から回収する。というのだ。（単純にその間の利益はどうするのだ）

原発事故後、賠償費用以外にも、その事故処理費用で電気代に上乗せされているものがまだある。原発事故後から私たちの電気料金に含まれる負担総額は年1689円、2020年以降はさらに1500円値上がりして3165円になる。（3人家族で平均的な電気使用量の家庭で大島氏試算）

国は、原子力損害賠償・廃炉等支援機構を通して、事故後、東電に約9兆円近い交付国債を発行。東電はこれを、除染や賠償費用などに充てて来た。「問題は、このお金が東電への“貸し付け”ではなく“特別利益”として計上されていること。形式的には東電の債務にはならず、返済の義務もありません」ただし、東電を含む原子力事業者は、“負担金”という形で、毎年数千億円のお金を支援機構に支払っているが、負担金の多くは電気代に上乗せされ、国民から徴収されている。莫大な額の国民負担なのだ。

さらに核燃料再処理（2011年2月に女の会「本当のはなし」で大島氏の講演で聞いた）や高速炉もんじゅの開発費用など原発政策全体にかかわる費用を合わせると、現在でも年間4494円負担しているが、2020年以降は6000円近くも電気料金に上乗せされることになる。

もっといろいろな問題がありこんな大きな電力システム改革を市民に説明もなく。市民に分からせないで電気代として徴収してしまう魂胆だ。（女性自身1月30日号を参考にしました）松浦雅代

週刊エコノミスト2月7日号は詳しく「電気代は税金となった」特集を載せています。

■ 汐見文隆先生、ありがとうございました

2016年11月3日、汐見文隆さんを偲ぶ会の報告。和歌山市勤労者センターにて、参加者107名と盛会でした。

汐見さんの主催された「公害教室」は、公害問題の学習の場として1972年に第1回が開催されて以来、166回（2002年）まで続けられましたが、この間、環境汚染、食品公害、薬害、たばこ問題、原子力発電、低周波公害等々、幅広いテーマと講師の多彩さには圧倒されます。そして、学習だけに終わることはありませんでした。学んだ人たちが、或いは汐見さんご自身が原発現地の闘争などに関わってこられました。



（元和歌山大学教授佐野稔氏のスピーチ）

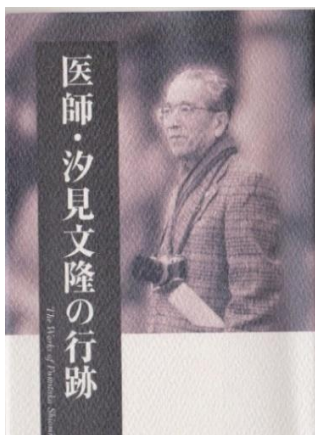
なお遺稿集『医師・汐見文隆の行跡』には、これらの膨大な記録が収められており、当日の参加者に配付されました。この大変貴重な文献の編集、出版に関わっていただいた皆さまに、深く感謝！！です。

今回の偲ぶ会は「第167回公害教室・最終章」と銘打たれているように、前段15分は、残された汐見さんの映像による低周波音被害についての授業。

◆DVD「風力発電の羽根の下で」。 <https://www.youtube.com/watch?v=9cRVf8w6CaA>

会の後段は県内外から集まれた方々から、それぞれの分野での足跡を振り返るお話をお聞きしました。どの方も生前の汐見さんについて超人的といってもよいその功績と運動の位置づけを語られました。お話しも尽きない感があって、終了予定時刻を大幅に過ぎてしまいました。

会場にはご親族とともに、お連れ合いの汐見恵さんも車いすで参加され、じっと見守っておられました。恵さんをご承知の通り、長らく原発がこわい女たちの会の代表世話人として手腕を発揮されました。汐見文隆さんにも会の運営を陰ながらサポートしていただきました。ともにありがとうございました。



公害はまだ終わっていない、原発もこれから、です。残された課題は大きいですが、汐見文隆さんの遺志を継いで最後まで運動を持続していきましょう。

◆「医師・汐見文隆の行跡」は◆編集・和歌山から公害をなくす市民のつどい、発行・寿郎社、2016年10月31日発行

なお本書は非売品だが、汐見文隆・著『低周波音被害を追って』が寿郎社より同時発売されています（定価1900円）。

（梅原清子）

■ お知らせ

◇山口県・上関原発のその後

2009年12月に「準備工事妨害行為者に対する損害賠償」として中国電力から提訴され4800万円もの損害賠償を村民2人・カヤッカー2人計4人が請求されていたスラップ訴訟は(女の会73号に記事)2016年8月30日に勝利的和解が成立しました。

山口県知事は中国電力の埋め立て免許延長申請を(2016年8月3日)許可してしまいました。

◇11月13日 琵琶湖が危ない老朽原発美浜3号も廃炉に！ 11・13琵琶湖集会

当会も賛同団体になり松浦が参加してきました。

◇12月3日(土)もんじゅを廃炉へ！全国集会。女の会として賛同。参加は出来ませんでした。

政府は21日午後、原子力関係閣僚会議を開き、高速増殖原型炉「もんじゅ」の廃炉を決定した。使った以上の燃料を生み出す「夢の原子炉」と期待されたが1兆円以上の事業費を投じながら、わずか250日しか運転できなかった。しかし高速炉開発の継続方針。

◇12月21日、原告になっている国相手の大飯原発止めよう裁判を傍聴しました。(松浦)

第20回法廷：11：00～大阪地裁202号法廷で

被告の準書面に対する反論と新たに、①福井地震のデータによれば、「入倉・三宅式」による地震モーメントの数值は過小評価となり、一方で、「武村式」による地震モーメントの数值は実測値に近く、地震モーメントを正確に評価していること、及び、②.地震の加速度(短周期レベル(地震動のレベル))を算出するにあたり、「壇他の式」ではなく、「片岡他の式」を用いるべきであることを主張した。

◇安孫子亘監督ドキュメンタリー映画「知事抹殺」の真実 が完成しました。

昨年4月に梅原さんと福島の佐藤栄佐久氏宅にお伺いした時、映画製作中だと仰っていました。

福島県から上映会が開催されています。

■ 記 遅くなりましたが、今年もよろしくお願ひします。

昨年、隣の畑から侵入してきた茅を素手で引っっこ抜こうとして右手を痛めた。中指が「バネ指」と診断されたのは、それが原因だと思う。

女たちの会は今年結成30年になります。

泉谷富子さんが生前70歳を過ぎて意識して外に出るようにしている。と言われていた。

私もそんな年になった。

「生きてるうちが花なのよ！死んだらそれまでよ党宣言」という映画を思い出した。(松浦雅代)